



介護体験を

聞く会



ホームページ
<http://www.yanagida-kaigo.co.jp/>

会報第159号

平成27年5月30日発行

発行所…(有)明寿会

住所…川崎区中島1-13-3

電話044-233-0061

*定例会は最終土曜日です。

(今月は4月25日)です

穏やかな性格の方で、はじめは車イスでの生活や移動でしたが、デイケアを利用するうちに次第に体力や身体機能が向上し、歩行ができるようになりました。さらには食後には食事で使用した食器を流し台まで持って行きたいという新たな希望をもつようになり、少づつ、しかし着実にリハビリを行い、生活能力を高めている方です。

第160回 介護体験を聞く会

平成27年4月25日

(土)に開催

*議題

- ① Mさん
八一歳女性の事例検討
- ② 在宅介護の苦勞を語り合う会
- ③ 「介護体験を聞く会」
決算報告出席者(職員)…

院長、柳田CM、柏倉、飯田、杉山、梅本、高橋(富)、古谷、厚川、長谷川、漆原
出席者(家族)…野々目さん、藤田さん、森下さん

夫妻

その他…多田さん(川崎中央はりきゆう院)、越智さん(地域包括)

① Mさん(八一歳)女性の事例検討検討の目的

…「デイケア」利用当初は車椅子での対応でしたが、リハビリにより杖歩行まで出来る様になりました。今後自宅での生活動作を維持していく為に、新制度を利用しQOL(生活の質)を上げていく。

氏名:Mさん(八一歳)

女性

生年月日:昭和九年二月一日
介護度:要介護1、
利用状況:一週間に三回(月・水・金)
利用開始日:平成二六年一月二四日、

出身地:茨城県

趣味:子育てに夢中で、これと言った趣味が無かったとの事です。

性格:穏やかで、控えめであるが社交的、
主介護者:次女

*既往歴

平成26年6月 心臓弁膜症手術 一〇月
左膝人工関節手術 一月
心臓ステント手術 一二月
坐骨神経痛、
内服薬

ランソプラゾールOD錠15mg:胃潰瘍や十二指腸潰瘍、逆流性食道炎の症状改善。



もしもし体操で心は一つ

指腸潰瘍、逆流性食道炎の症状改善。

バイアスピリン錠100mg:血液が固まるのを抑え、血栓が出来るのを防ぐ。プラビックス錠75mg:血液が固まるのを抑え、血液の流れを改善。トラゼンタ錠5mg:血糖値を下げる。アクトス錠15:血糖値を下げる。ベイスンOD錠0.2:食後の血糖値の上昇を抑える。ニフエジピンCR錠20mg:血圧を下げる、狭心症を改善。ニコランマート錠5mg:狭心症を改善。カロナール錠300:解熱、鎮痛剤。

*生い立ち

茨城県東海村で生まれる。実家は農業と商店を営み、地元の中学校卒業後は実家の家業を手伝う。20歳で結婚され、同時に横浜へ出て来られました。次いで川崎の出来野、大島、渡田と引っ越しされる。

その間、娘さん3人を出産されました。ご主人は消防士だったとの事です。62歳で他界されたそうです。パートとして、町工場でテレビの部品作りをやった経験がある程度で、ほとんど専業主婦だったとの事です。昨年は、大きな手術が続き入院を繰り返した為、重度の歩行困難となり、ベッドからトイレまで移動出来る様になりたい、動ける様になりたいとの事で、デイケアをご利用開始されました。

*家庭での様子

車椅子が使用出来る広さではない為、ほとんど動かずに過ごされていました。ずっとテレビを見ていたそうです。デイケア



おやつづくり

に行く様になってからは、トイレまで行ける様にもなり、家事では魚の下ごしらえをしたり、野菜を茹でたりしています。洗濯物をハンガーに掛け娘さんに渡してくれる手伝いもしてくれるそうです。デイケアであった出来事をよく話してくれる様になったそうで、なにより活気が出て来たとの事です。

***デイケアでの様子**

デイケア来室当初は、重度の両下肢浮腫と右膝痛により車椅子で来室されていましたが、立ち上がりにも介助が必要で、両

手引きで数メートル歩けるかというレベルだった為、デイケア内でも車椅子にて過ごされていました。この頃は頻尿で、デイケア在室中7回から8回程トイレに行かれていました。その内、4回から5回はパット交換が必要な程の失禁状態でした。精神的健康状態は全く問題が無く、スムーズに集団の中にも入る事が出来ました。ご自分から話し出す事は少ない様ですが、他の利用者様が話し掛けたり職員が声掛けしたりすると、笑顔と共に穏やかに応えて下さいます。また、誰にでも分け隔て無く優しく接して下さい、職員が介助する度に「申し訳ありませんね」「お手数掛けます」と、ありがとうございます」と、こちらが恐縮してしまうほど心配りされる人柄です。さらに集中力も凄く、創作にて作業され出すと、職員が止めるまで熱心に打ち込まれる程です。デイケアご利用から1か月程で、身体的に変化(向上)が見られる様になりました。それに伴い、ト

イレの回数も激減し失禁も少なくなりました。トイレの件については、詳しい因果関係は不明です。来室当初は車椅子が基本でしたが、現在は見守りの中、立ち上がりは自立で、1点杖にて歩行出来るまで回復されております。

***リハビリの様子**

12月下旬(来室当初)
ベッド上でのリハビリを開始する。両下肢浮腫、右膝痛、坐骨神経痛を確認する。

1月上旬：キヤスター付の歩行器にて歩行訓練を開始する。

1月下旬：介助・見守りの中、4点杖にて歩行訓練を開始する。この頃から、両下肢浮腫の改善、坐骨神経痛の痛み軽減と徐々に変化(向上)が見られる。また、デイケア在室中は車椅子から普通の椅子に移乗して日中を過ごして頂く。

2月中旬：右膝痛予防の為、右膝に装具(バンド式サポーター)を装着し、足の浮腫・痺れ・痛

みを確認しながらリハビリを継続する。
3月中旬：屋外歩行、階段昇降の訓練を開始する。

***今後の方向について**

食べ終わった食器を両手で持ちながら、テーブルから流し台まで歩いて運びたい。というご本人様の新しい目標が出来ました。今後は、新しい制度のリハビリマネジメント加算Ⅱ(日常生活の向上と共に、自立支援の為に力を入れたプランです)を基に、疼痛調整を行いながら運動量を増加していく、歩行、日常生活動作の安定性の獲得を目指していきます。

検討会より

院長：この方はベッド上で寝ることが多くて下肢筋力が低下してきていた。デイケアを利用することを通じて3、4か月で歩けるようになってきた。本人の努力もあるし、リハビリなどの専門他職種が関わることで歩けるよ

うになった。
梅本：来室当初は要介護4で週5回デイケアを利用していた。今は歩けるようになり要介護1、週3回の利用になっている。
院長：デイケアでは集団リハビリと個別リハビリを組み合わせてやっている。集団の中でやっているというところが励みになると思う。Mさんのように車いすだった人が歩けるようになったという事例は結構ある。

リハビリは病気の予防にもなっている。

第2の心臓といわれるふくらはぎを動かす運動、イージーウォークを使う

人間ピラミッド



以上を踏まえまして1ヶ月あたりの介護保険利用料1割負担分が、

要介護1	27,926円
要介護2	29,174円
要介護3	29,995円
要介護4	30,586円
要介護5	31,178円

円↓30,650円
円↓31,243円となります。

※医療連携体制加算・サービス提供体制強化加算Ⅲ・介護職員処遇改善加算Ⅰを含みます。
※認知症専門ケア加算Ⅰについては、認知症日常生活自立度Ⅲ以上の方のみが対象となり、1ヶ月104円が加算されます。



ご家族の負担が増えることになりませんが、ご理解とご協力をお願いいたします。

富士見中学校 運動会参観

5月9日の土曜日、富士見中学校からお招きいただきました。天気予報は曇りで、雨も心配な空模様でしたが、皆さんの期待に空が応えてくれたのか次第に空が明るくなる中で見学ができました。

会場に到着すると、ちょうど組み体操の真っ最中。男子生徒が4段ピラミッドに挑戦している姿に目を奪われながら着席し、拍手と声援を送りました。崩れても繰り返し挑戦しようとする姿に「よく頑張るねえ、偉いねえ」「今の子供は立派なものだ、昔はこんなやらかったよ」と感心しながら応援していました。周りの生徒から大きな声援が飛ぶと「みんな優しい良い子だ、良い仲間だねえ」と目を潤ませる方も

いらつしやいました。

徒競走が始まると、応援もしながら昔を思い出される方も多く「私も昔は早かったんだよ、一等になつて鉛筆とか読本とかももらったんだよ」と自慢気に話される方もいました。

柳田デイケア・デイサービス・グループホーム旭町では、普段から交流会や職場体験などで子供達と交流する機会はありませんが、子供たち中心の行事を見学する機会はありません。発表などの少し緊張した様子とは違い、生き生きとした表情で躍動する子供たちから、皆さん元気をもらったようでした。

帰りの車内で「去年も今年も、良かったわね」と、毎年の見学を楽しみにされていると話す方もおり、またぜひこのような交流の機会を続けさせていただければと思います。

(柳田デイサービス 古谷)

喀痰吸引の研修を受けて

今回入居者の1人の方が胃ろうとなり、胃ろう栄養と喀痰吸引が必要となりました。

胃ろうとは口から食事が入らない方や、飲み込みが悪く食べてもむせ込んでしまい肺炎など起こしてしまう方に対して腹壁から胃に穴をあけチューブを通して直接栄養を入れる方法です。また喀痰吸引とは、吸引器を用いて口や鼻にチューブを挿入し喉などに溜まった痰を吸引するものです。

胃ろうと喀痰吸引は医療行為にあたるので介護職員は実施できないと思っ

ていましたが、研修を受け試験に合格すれば実施できるようなるとの事でした。院長からの研修の話を聞き「やってみよう」と思い、2日間の喀痰吸引の研修に参加しました。研修を受けるにあたり考えていたのは利用者さんの苦痛をなるべく軽くできるように、また、不安を感じさせないような対応を学ぶことでした。実際研修では人形を使い胃ろうと痰の吸引も練習

しました。

初めて実際に入居者の方の痰の吸引をするときには「本当に出来るのだろうか」と戸惑いもありましたが、何度も看護師の方に指導してもらいながら出来る様になりました。大きな責任を感じつつ、利用者さんの様子を観察しながら慎重に行っています。研修は2日間と短い期間でしたが、改めて学ぶことも多くとても勉強になった研修でした。

グループホーム旭町
職員

青年の活躍に拍手

